

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300439		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂		
所在地	〒855-0802 長崎県島原市弁天町1丁目7054番地 (電話)0957-65-0567		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(平成21年 1月 16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人 非常勤 1 人, 常勤換算 5.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(1月 16日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90 歳	最低 82 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人済家会 柴田長庚堂病院・島原保養院・喜多歯科医院
---------	------------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体は地域医療に尽力している医療機関である。「長庚堂」とは中国では宵の明星を意味しており、思いやりのある頼れる、信頼できる法人である。グループホームに院長が直接往診で訪れ、入居者や職員と直接触れ合う事で、安心に繋がっている。島原市の中心に位置し、入居者は買い物を楽しみ快適な生活の継続が出来ている。また、法人の職員の託児所の子供達との触れ合いの機会を設け、入居者の楽しみの一環になっている。住宅地の一面に位置し、町内会に加入し、少しずつ地域の繋がりが広がっている。ここでは常に入居者が生活の中心であり、入居者の作品を飾り、職員が習う事も多く、医療に守られながら、伸びやかな生活を楽しんでいる事が訪問時に感じる事が出来、地域との共生も含め期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を運営の向上の一端と理解し、真摯に受け止め積極的に取り組まれている。前回の評価に対しては、改善計画シートを作成し、地域を盛り込んだ理念の見直し・研修受講後は資料の閲覧印等、前向きな取り組みが窺える。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を職員に配布し、日頃している事をありのままに記入して提出し、全員で話し合い実施している。自己評価の成果としては、日頃のケアを振り返る事ができている。項目の文言が分かりにくい点が多々あり、記述には困難を要したのが現実である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月毎に町内会長・地域包括支援センターの職員・家族の代表・ホーム側が参加して、色々な方面からの話し合いを実施している。地域の代表や家族の参加があると報告のみでなく、質疑・応答があり、内容が充実しているが、欠席の場合は報告のみに留まりがちである。また、会議内容は次回に報告したり、自宅へ届けている。会議を重ねる事で、地域との深まりが浸透しているが故に参加者の選定は重要であり、地域の代表は町内会長と、建設的な意見や情報が得られる人選を行い、会議開催時には常にどちらかは参加して頂く体制の確立を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会を年2回開催し、触れ合う事でホームを知って頂く事に繋がっている。利用料や「まちなかだより」の送付時、個別の手紙を付け加え、「何かありましたら」と書く事で、常に意見を聞く姿勢を前面に出している。家族も気軽に、面会簿に関する意見(プライバシーに配慮して、1枚に記入)等を伝え、意見には早急に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、会長を通じてお願いや行事への参加をしている。ボランティアや小中学生の体験学習や、専門学校での研修を受託している。時には母体の託児所の子供達が来訪し、入居者の喜びとなっている。地域との関わりは、年々少しずつ深まっており、遊びに来ていただく方向を目指している。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「馴染みのある地域の中で、老いても、障害を持って、自分らしく暮らせるように」である。地域密着型を取り入れた理念を掲げ、その人が慣れ親しんだ地域で、今までと変わらない生活への支援を実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関の見やすい場所に掲げ、職員をはじめ訪問者にもアピールしている。また、介護目標を事務所に掲げ、日々のケアを意識付け、入居者の気持ちを理解し、笑顔を決やさない対応に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、会長を通じてお願いや行事への参加をしている。ボランティアや小中学生の体験学習や、専門学校の研修を受託している。時には母体の託児所の子供達が来訪し、入居者の喜びとなっている。地域との関わりは、年々少しずつ深まっており、遊びに来ていただく方向を目指している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員に配布し、日頃している事をありのままに記入・提出し、全員で話し合い、日頃のケアを振り返る事ができている。項目の文言が分かりにくい点が多々あり、記述には困難を要したのが現実である。前回の評価に対しては改善計画シートを作成し、地域を盛り込んだ理念・研修受講後は資料の閲覧印等、前向きな取り組みが窺える。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に町内会長・島田市地域包括支援センターの職員・家族の代表・ホーム側が参加して、色々な方面からの話し合いを実施している。地域の代表や家族の参加があると報告のみでなく、質疑・応答があり、内容が充実しているが、欠席の場合は報告のみに留まりがちである。また、会議内容は次回に報告したり、自宅へ届けている。		運営推進会議を重ねる事で、地域との深まりが浸透しているが故に参加者の選定は重要であり、地域の代表は町内会長と、建設的な意見や情報が得られる人選を行い、会議開催時にはどちらかは参加して頂く体制の確立を期待したい。

グループホーム 長庚堂

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体の院長(ホームの代表者兼務)が介護保険との関わりが深く、市の要請による会議や認知症専門の講話をする機会が多く、関わりが持てている。また、アンケート調査や情報提供を実施しながら、時には島原市地域包括支援センターの担当者が来訪しており、馴染みの関係である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	春夏秋冬に「まちななかだより」を作成し、郵送(頻繁に来訪する家族には手渡し)している。必要に応じて、電話やファックスで報告する事もある。遠方の家族や場合では請求書と一緒に管理者が手紙を書き、家族の安心へと繋げている。また、手紙や贈り物をする入居者の支援も実施している。金銭管理は現金預かり書を発行し、利用明細に了解を頂いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催(その内1回は関連法人のホームと合同)し、触れ合う事でホームを知る事に繋げている。家族に送付する手紙にも、「何かありましたら」と書く事で、常に意見を聞く姿勢を前面に出している。家族も気軽に、面会簿に関する意見(プライバシーに配慮して、1枚で書く面会簿)等を伝え、意見には早急に対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎月のスタッフ会議後にお茶会や食事会を実施し、職員間のコミュニケーションを取って、何でも言える関係作りが出来ており、異動は基より離職も殆どない。また、院長が月1回は往診でホームを訪問し、職員とお茶を飲みながら話す機会を設けたり、奥様が月2回来られ、ホームとの関わりを維持する事で、入居者へ変わらない支援ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月母体の病院から研修の予定を聞き、受講し申し送り時や昼食時に職員に共有を図っている。また、毎月職員会議を1~2時間を費やし、全員参加で入居者の様子・行事・内部研修を実施し、スキルアップに努めているが、研修受講記録や会議録の作成がない。		職員が学ぶ機会は多く、外部や内部の研修を実施しているが、記録がない。研修内容・参加者・実施日を記述した、研修受講記録・会議録(全職員が共有する仕組みとして、参加できなかった人には閲覧して押印等)を作成し、学習内容と周知状況を明確にし、総合的に学習できる工夫を期待したい。また、ホームが入居時に説明している、契約書・運営規定・重要事項説明書等を職員の理解に繋げる研修をされることにも期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア研究会に加入し、グループワーク等で他の施設の職員と話す機会があり、情報交換を行っている。また、関連法人で全く違う場所にグループホームがあり、花見等を一緒にする等、交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者は母体の病院に固執する事はなく、連携室からの情報を基に、家族や本人が見学を訪れ、ホームの状況を説明している。ホーム側でも受け入れが出来るか検討し、入居に至っている。入居後は家族の協力を得ながら、職員が出来るだけ一緒に行動し、心身に配慮して支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームの玄関には入居者が作成した、お雛様が飾られ、職員は習いながら一緒に作成しているが、入居者のようには出来ず、作って貰うことが多い。また、花の名前等入居者の技や知恵を教えて頂きながら穏やかに、楽しい生活支援ができています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>現在の入居者は落ち着いて穏やかであり、職員は会話やその人の表情やしぐさで思いや意向を判断しながら支援している。生活歴を含めた利用者プロフィールを作成している。書類が多く、職員全員で共有するには少々不安である。</p>		<p>現時点では職員の異動や離職は殆どなく、慣れた職員が口頭伝達で思いを把握して支援できているが、職員の交代や入居者の状況の変化を視野に入れた、ケアのポイントに活用できる、分かり易い書式の工夫を期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成に当たり、入居者や家族の意向を踏まえ、職員で話し合い、それぞれの意見を考慮して、医療面や生活面の両面を援助内容に取り入れている。職員はケアの目標を名札の裏に記述し、それを見ながら日々のケアで実践している。作成した計画書は家族の理解を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の変更時には在宅ケアアセスメント表(MDS-HC)や領域選定表で状態を把握している。日々のケアや職員の気付きを参考にして計画の見直しを実施している。また、入居者の変化に伴い見直し期間を変更している。現時点ではアセスメント表と計画の見直しの連動が分かりにくい。</p>		<p>在宅アセスメント表は多方面の領域でのチェック方法であり、作業の効率と、グループホームを加味した、必要事項を抜粋した書式の工夫が望まれる。また、入居者の変化が一目で分かる、モニタリングチェックシート(年間のケアの実行状況が見られる)の作成により、更に現状に即した介護計画に向けた連動した流れを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者がホームに入居しても住み慣れた地域で過ごせるように、母体である医療支援を最大限に、通院・往診・リハビリ・配食(管理栄養士により、病院の厨房で調理する事で、栄養管理と安価による提供)等を活用している。また、家族の宿泊等、柔軟な対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院に固執する事無く、医師と相談しながら、入居者にとって最善の医療機関への受診の支援を行っている。また、歯科とも連携しており、24時間受診をお願いできる体制が確保できている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに、ホーム内で看取りの実施はない。入居時には家族にホームの指針について説明し、同意を得ている。入居に際して母体の病院が近く、医療面の支援の充実で選ばれる事が多く、急変時を含め、綿密な連絡により支援している。また、グループホーム連絡協議会の看取りの勉強会に参加し、職員の取るべき方向性についての話し合いを実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉掛けをしないように話し合い、職員のスキルアップに努めている。面会簿は個別に記入していただいたり、失禁時には人目につかないように、居室で行う等、配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったり・ゆっくりした生活を念頭に置き、その人のペースを尊重し、見守りながら無理強いする事の無い、生活支援をしている。訪問時は、手芸品の買い物をする人や、居室で横になってゆっくりとテレビや読書を楽しんでいる姿が見受けられ、それぞれ自由な生活支援が実践されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食は、母体の医療機関の厨房で作られ、ホームで注ぎ分けている。朝食はホームで準備しており、米とぎや食品の刻みや食器洗い等、出来る事を手伝っている。職員と一緒に食卓を囲み楽しい食事風景である。時には入居者の希望でインスタントラーメンや出前を取り、変化のある支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきであるが、夏場はシャワー浴を取り入れ毎日汗を流している。時には入居者同士で一緒に入る事があり、入浴を楽しんでいる。拒否者には「体を拭きましょう」の言葉かけや着替えを嫌がる人には、入浴中に置き換える等、工夫をしながら清潔保持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は仕事(剪定・米とぎ・居室の掃除・新聞折等)や楽しみ(縫い物・塗り絵・小物作り・手紙のやり取り・買い物・お面作り等)の出来る事を積極的にしながら生活している。レクレーション係を決め、年間計画を作成し、人としての楽しみのある生活支援に尽力している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1年間を通して、全く外出しない人はなく、出来るだけ外出に努めている。ホームの駐車場の散歩・通院・アーケードへの買い物は日常的に行われ、計画的に行事を取り入れ、ドライブ・墓参り・関連法人のグループホームと一緒に花見をする等、外気に触れる機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの方針としては、見守りや同行をする事で、転倒に配慮しながら、自由な生活支援を維持したいと考え、施錠は実施していない。玄関にはチャイムの設置と、事務所が真横にあることで、出入りが確認できる。また、町内会長にお願いしており、徘徊への配慮も怠っていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立会いで昼夜を想定した訓練を地域の住人が参加して実施している。地震に関しては、家具等が倒れないように日頃から配置に気配りしている。備蓄や持ち出し品は歩いて2～3分で母体の医療機関があり、万が一の時の支援は可能である。また、島原市が作成している防災マニュアルを参考に職員と共有し、非常時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士の作成する献立で、入居者の病気や身体状況に合わせた食事が提供されている。飲水は制限のある人のみ管理し、他の人は不足しないように配慮している。また、糖尿病の入居者には低カロリージュースや低糖のプリン・ゼリーで楽しみを取り入れながら支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>住宅地の一画であるが、一方はホームの駐車場であり、日当たりが良く、明るい。騒音はなく、空調管理により空気の淀みを感じることなく、快適である。玄関には入居者が作成したお雛様を飾り、季節を感じる事が出来る。リビングは広くはないが椅子・ダイニングセット・炬燵(畳の部分)を配置し、入居者がゆっくり過ごせるスペースの確保ができています。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はそれぞれの生活が窺え、隣の居室の人のプレゼントを飾ったり、孫の結婚式の写真・衣装コンテナ・テレビ・仏壇・お位牌・カーペット・テーブル・書籍等が置かれ、入居者が居室で過ごされている姿から、我が家として機能していることが感じられる。</p>		